

## 平成26年度通訳意見交換会・豊明市外国籍市民施策懇話会合同会議 記録

日 時：平成26年12月18日（木）15:00～16:10

場 所：豊明市役所 会議室8

出席者：通訳 9名 市民協働課 大山リカルド、嶋原美幸、二村台保育園 建部リジアテルミ、双峰小学校 重岡リツカ、波多野亜千似、川濱マリナ、唐竹小学校 松田プリシラ、森田チアキ、豊明中学校 古屋あゆみ  
豊明市外国籍市民施策懇話会委員6名（欠席者 石原則脘、朴亨徳）  
二井紀美子、可児敏廣、野間章子、小原ミカ、阿曾ロエナ、近藤恒明  
事務局：糸課長補佐、矢取、浦主査

### 1. 挨拶

市民協働課課長より、挨拶がなされた。

### 2. 議題

#### (1) 各職場における多文化共生の現状

- ・最近の傾向、行政への要望、問題点等【自由な意見交換】

(意見交換の内容)

- ・フィリピンの方からは、通訳の配置に感謝の言葉をいただいている。  
(フィリピン人は319人で、市内で3番目に多い国籍)
- ・ブラジル人の親は、学校を休むことへの考え方が日本人とは違い、すぐ休ませてしまうことが気になっている。また、子どもの将来への見通しが足りないのではないかと感じている。子どもの将来について、早い時期から情報提供をした方が良いのではないか。
- ・日本は勉強ができなくても進級ができてしまい、高校受験になって、取り戻そうとしても難しいが、子ども達も親も、何とかなると思っているようである。
- ・基礎教育は必要である。
- ・高校進学率は高いが、卒業率は下がっている。
- ・通訳の負担は、役所、教員が考えているより大きいのではないか。  
何語で指導するかが大事であり、日本で生まれた子は、日本語で指導し、思考言語を高めていくことがよい。何歳で来日するかで、母国語が違うので、対応が変わってくる。
- ・教師も外国籍だからということで甘くなってしまう、また通訳に頼りきりになっている。
- ・愛知教育大学にもブラジル人学生がいるが、親の意識の差が出ると感じる。成功

例についての情報提供をしていないのではないか。

- ・家庭での親の育て方が肝心であり、日本は通訳がいて外国人に対して親切である。
- ・指導をすると、日本の学校は厳しすぎると言ってブラジル人学校に行ったりする人もいる。
- ・保育園の年長になるとプレスクールを案内している。
- ・日本のルールとマナーを伝えた方がよい。
- ・子どものことを考えて、通訳が保護者に説明しても、親が子どもに対して勉強の大切さを伝えられない。
- ・ブラジルは義務教育ではなく、親自身の教育が不十分ということがある。

外国籍市民施策懇話会二井会長より

通訳さんたちが行っている工夫を共有する機会や場を今後も設けていただきたい。

### 3. その他

- ・多言語資料が必要であれば、市民協働課へ連絡してほしい。

合同会議終了後、ブラジル国の学制の法律改正の情報提供により通訳業務の対応について打合せがおこなわれた。